

国名(日本語)	アンティグア・バーブーダ
国名(英語)	Antigua and Barbuda



国名の由来	<p>国土を構成する2つの主な島の名前、アンティグア島とバーブーダ島を合わせたもの。前者はスペイン・セビリヤのサンタ・マリア・デ・ラ・アンティグア教会に由来。後者はバルバドス島と誤って地図に記されたものが、英語なまりになった。</p> <p>15世紀のコロンブス来航後、スペイン、フランスの植民地を経て、17世紀にイギリスの植民地になり、1981年にイギリス連邦の一員として独立。</p>
国旗の由来	<p>勝利を意味する赤いV字型の向こうに昇る太陽を描いた斬新なデザイン。赤は国民の活力、黒は大部分を占めるアフリカ系の人々、白はヨーロッパ系の白人、青は希望を表している。また、黄色い太陽は時代の夜明けを象徴し、青は海、白は砂浜を意味し、この国の大切な観光資源を表している。</p>
1 面積	440平方キロメートル(種子島とほぼ同じ)(2014年 世界銀行)
2 人口	9.1万人(2014年 世界銀行)
3 首都	セントジョンズ
4 言語	英語
5 宗教	キリスト教(英国国教会、プロテスタント、カトリック等)、その他
6 豆知識	<p>18世紀末に完成した海軍造船所「ネルソンズ・ドックヤード」は現存する最古の造船所で、観光スポットとなっている。その名は英国海軍ネルソン提督の名前に由来する。18世紀には、この島の港はイギリスにとってカリブ海への玄関といわれ、植民地への重要な中継港だった。砂糖プランテーションのため、多くの黒人奴隷がアフリカから連行された。</p>